

第3回八幡市行財政改革検討懇談会議事録<要点>

- 日時：令和7年11月28日（金） 10時00分～12時00分
- 場所：八幡市役所本庁舎 3階 会議室3-3
- 傍聴者：1人
- 出席者：橋本行史会長、石原和幸委員、古田京子委員、壬生裕子委員
- 欠席者：森田広大委員

1. 開会

2. 協議・報告事項

事務事業の整理合理化に向けた試行的な取組について

<委員>

八幡市は市内に大きな産業がなく、観光振興により活性化を図って来られたが、高齢化や人口減少等が進む中で対策が必要となっている。事務局の「事務事業の整理合理化に向けた試行的な取組について」の説明には合理性があると考えるが、一覧に掲載されている事業すべてが見直しの対象となっているのか。また事務局による整理の結果、領域4（目的・効果等の再検証及び効率化の検討を前提に継続）が多い結果となったが、行革を進めるためには更なる検討が必要ではないか。

<事務局>

今回は試行的な取組のため対象を一部に絞ったが、次年度からは新総合計画の策定作業もあり、その中で全庁的に取り組むなど今後対象を拡大していく。

<委員>

経常収支比率が100%を超えたのはいつからか。また他の市町村もこういった洗い出しに取り組んでいるか。

<事務局>

経常収支比率についてはR6年度に100%を超過した。事務事業評価は府内南部ではあまりないが、取り組んでいる自治体は複数ある。

<委員>

行政としても市民サービスの低下は避けたいところだと思うが、結果と見通しを踏まえると必要性や有効性の検討は必要である。

＜委員＞

今回洗い出した事業を4つの性質に分けて一覧にまとめているが、これ以外にも該当する事業や見直すべき性質の事業がある可能性がある。

＜委員＞

人件費や作業量をどう減らすかも大切だが、各事業の人事費の算定は考慮されているか。事業費が少なくとも人件費が高いケースもあるため、難しい点だと思うが、いずれかのタイミングで検討が必要であると考える。

＜事務局＞

現時点では考慮できていないが、今後の検討課題だと考える。また、別途作業プロセスに関する課題についても洗い出し、汎用可能な事例を横展開させていくことも必要だと考えている。

＜委員＞

DX化が進められているが、ペーパーベースの業務との併存により事務負担が減っていない可能性もあり、この点も検討が必要。

＜委員＞

廃止・継続いずれにしても、市民に理由を分かりやすく示す必要がある。マトリクス表のような形だと市民目線でもわかりやすく、長く続いている事業など、理由を示せば理解を得られると思う。

＜委員＞

老人医療負担金貸付事業について、現在実績がないということだが、認知度が低いのではないか。

＜事務局＞

この事業は過去に国制度により老人医療が無償化となっていた期間があり、その後老人保健制度により有償化となった際に緩和措置として開始されたものと思われる。現在ではニーズがなく実績がないものと考えている。制度がある以上、予算計上や対応準備など、毎年一定の人事費等が生じることになる。

＜委員＞

障がい者配食サービス事業について、安否確認の要素は今後も必要となるが、他のサービスでその機能を果たせると捉えることができるならば統廃合の方向で検討を進めて

も問題ないと考える。

<委員>

市民協働は今後の市運営の柱の一つである。ただその中で、市民協働活動センター運営について、貸館業務としての側面は、庁舎や文化センターで代替可能なため必要性は低いと思われるが、活動団体の意向もあるため丁寧に進めていく必要がある。

<委員>

今後市民活動を活発化していくこうという団体は多いと思われるため、市民活動を支援する機能が後退しないよう注意が必要である。

<事務局>

活動団体の意向については、今後状況を見て進めていく必要がある。当該施設を含め、市民活動の支援については、市民協働推進課が所管し、様々な支援を行っている。当センターの主な機能はNPO設立を支援するもので、市内のNPO団体数も一定増えているため、センターの当初の目的は達成しているのではないかという評価案である。

<委員>

新たな段階に移り目的を転換することは合理性があると思うが、事業そのものは今後発展していくものと思われるため、本当に今の団体数で十分なのかも含め事業を後退させないよう注意して進めていく必要がある。

<委員>

精神障がい者集団指導事業については、民間でも実施されているため、市で実施する必要はあるか。

<委員>

費用面等で民間サービスを受けづらい方が市のサービスを利用している可能性はないか。

<委員>

民間で実施可能なサービスは民間に委ねることで収入増加にもつながると思うが、精神に障害をもつ方や高齢者に関する市のデータを活用しながら、民間と連携し関わりが切れないよう配慮が必要である。

＜事務局＞

優先順位を考慮して一旦休止し、ニーズがあるかを見極めるのも一つの方法と考えている。

＜委員＞

実施形態等を含め市の関わり方を十分に検討されたい。

＜委員＞

松花堂昭乗イラストコンテスト、徒然草エッセイ大賞については、2つをうまくリンクさせて、松花堂昭乗や徒然草が本市にゆかりのある人物、作品であるということを子ども達に教育するきっかけとするなど、子どもへの支援・教育という視点で事業の実施形態等を検討してはどうか。全国的な事業となっている徒然草エッセイ大賞をやめてしまうのはもったいない。継続することで認知度も向上する。

＜委員＞

事業の整理を行うにあたり、ある程度廃止等はやむを得ないが、子どもへの支援は継続すべきと考える。本事業については、例えば市制施行50周年のタイミングでリニューアルし、一般の部を廃止することで賞金に係る費用を減らすなど、子どもをターゲットにしていくのも一つではないか。

＜委員＞

「松花堂昭乗イラストコンテスト」を実施体制を見直して子どもへの支援・教育という視点から残すのは良く考えられた一案である。「徒然草エッセイ大賞」も同様の枠組みで残す方法がある。ただ、市の観光資源に対する情報発信力が足らないとされる中で、「徒然草エッセイ大賞」は全国向けの貴重な情報発信コンテンツであるので別の枠組みで残すことも考えられる。作品審査の規模を縮小する方法のほか、周年記念の際は大々的に実施し、他の年は少しスケールダウンすることも考えられる。

＜委員＞

大切な事業だと思うので、合理性や効率を考えた上で実施方法を検討してほしい。

＜事務局＞

作品審査が必要であり、職員への負担が課題となっているが、市の文化発信という事業目的自体は重要であると評価している。ご意見にもあるが、少子化、人口減少が進む中、将来への投資、子どもへの投資のために統廃合を行う視点が必要であり、そういった視点で整理合理化を図るという点についてもご意見をいただき、今後検討していきたい。

＜委員＞

敬老のつどいについては、年に1度きりの事業への補助である等の理由により見直しを検討してはどうかという事務局の説明であるが、高齢者向けの事業の見直し案がいくつかあげられているので、見直しを進めるにあたっては丁寧な説明が必要。

地元産味噌給食利用促進助成を見直す場合には、事業を残す場合は他の食材ではなく味噌づくりを支援する特別な理由が必要であり、味噌に特化する特別な理由がない場合は他の方法を検討することもありうるかと思う。

＜事務局＞

八幡市産の大豆で賄い切れていない面もあり、地産地消という目的ならば、八幡市内の様々な野菜に補助するなど他の方法の検討も必要ではないかと考える。

公共施設使用料の見直しについて

＜委員＞

料金を徴収することでかかる人件費についても考慮する必要がある。市外料金の設定については、利用者団体の中に市民と市外利用者がいる場合どのような対応となるか。

＜事務局＞

その点については整理が必要だが、団体の代表者や構成員の市民割合等で判断するなどが考えられる。

＜委員＞

流れ橋交流プラザについては、施設の老朽化などもあるため、料金の見直しよりも施設のあり方に関する検討委員会などが必要ではないか。

＜委員＞

メンテナンスやリニューアルが必要な施設だと思う。

＜事務局＞

現在公共施設再編計画の策定に取り組んでいるため、また素案が示される予定である。

＜委員＞

公園施設・体育館について、営利目的利用は値下げの方針という理解で良いか。また、競合する施設はどこか。

＜事務局＞

現状は市民利用を優先し営利目的利用を抑制する目的で10倍料金としていたが、今後は利用促進を図る目的で2倍料金に引き下げとしている。競合する施設は京田辺市や枚方市となる。テニスコートについては宇治市、城陽市と競合しているが、需要が高くすぐ予約が埋まる状況である。

＜委員＞

利用率の低い施設で値上げするとかえって収益が下がるのではないか。また、事務は複雑化するが、高齢者減免があるなら子どもの利用を促す料金設定があっても良いのではないか。

＜委員＞

プールは施設の中身が近隣市のものとかなり違うため、八幡市は現行料金が妥当ではないか。

＜委員＞

高齢者以外の減免はあるか。自治体によっては登録団体や関係団体を減免している関係で収益減となっている例もある。

＜事務局＞

障がい者への減免は行っている。

＜委員＞

松花堂庭園・美術館については、既に近隣に比べ高いので引上げる必要ないとのことだが、単価を大幅に引き上げる特別料金の設定についてはどういったものを想定しているか。

＜事務局＞

茶室の貸切の場合、お茶のセットなどの諸経費を込みでパッケージ料金を設定するなどが考えられる。庭園の貸切は現在行っていないが、コスプレ撮影等の需要があると聞いているため、そのような利用に対するパッケージ料金等が想定される。

＜事務局＞

文化センター大ホールについて、競合する長岡京市が今年4月に物価上昇分として14%の増額改定をしているが、現状の文化センターより低い料金である。

<委員>

生涯学習センターの各種事業については、無料で参加するよりいくらか参加費を払った方が参加者の意識向上に繋がるのではないか。

<委員>

参加費を徴収することには賛成だが、現金の受け渡しはおつりの管理など煩雑な部分が増えるため、電子決済も含め検討が必要。

<委員>

高齢者減免の年齢引き上げについては、段階的な引き上げや時期を遅らせるなどの経過措置も考慮する必要がある。事務は複雑化するため整理合理化の流れとは逆行するが、その点も含めて検討願う。

全体を通して

<委員>

財政状況を把握し検討することは大切であり、出来るものからすぐにでも取り掛かっていくべきである。取り組む中で新たな課題等が見つかる可能性もあり、やることに意味があると考える。

<委員>

長年このまちに住んでいるが、これからも住みたいまちであってほしいのでよろしくお願いしたい。

<委員>

進めににくい取組だと思うが、将来を見据え市民にしっかりと説明しながら着実に進めてほしい。

<委員>

今回委員から出た意見は相互に矛盾する部分もあると思うが、それらを踏まえたうえで実質的な効果が上がるような方法を検討していただきたい。

4. その他

特になし

5. 閉会

以上